第 2 次唐津商工会議所中期計画2021－2024（案）

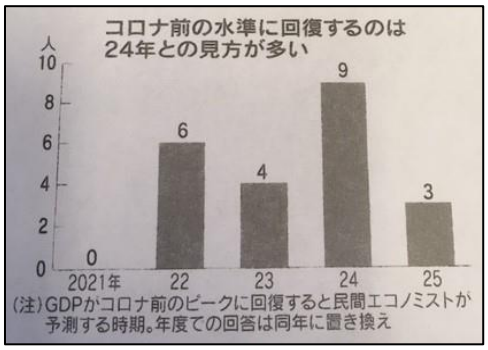
（はじめに～コロナ禍という荒波の先にある光を見つけよう～）

（1）コロナとの戦いは長く続きます。／with コロナ、after コロナを見据えて

新型コロナ感染症が世界中で猛威を振るっています。100 年に一度といわれるパンデミックです。世界経済だけでなく、私たちの街・唐津においても地域経済は荒波にもまれ、個別の事業者は悪戦苦闘しています。

先行きは不透明です。確実に言えることはこの不透明感はしばらく続くということです。日経新聞が民間エコノミストに聞いた経済の先行きではコロナ前に回復するのは 2024 年との見方が一番多い回答でした。国際航空運送協会（IATA）は世界の航空需要が回復するのは、これも 2024 年との見通しを示しています。

私たちは長く続く with コロナに備えなければなりません。あわせて、after コロナを見据えた取り組みを準備する必要があります。



日経新聞 2020.8.18

（2）大きな変化の後には新しいビジネスが生まれます。

働き方、居住の選択、消費のあり方が変わってきます。大都会の高密度、斉一的な居住、働き方はその危険性があらわになりました。魅力ある地方の街づくりが地方創生のかなめになります。唐津はその可能性を十分に有しています。

（3）時代を切り拓いた唐津の先人の進取の気性を改めて学び元気を獲得しよう。

本計画の期間中に唐津と縁のある節目の年をいくつか迎えます。

2021 年は耐恒寮が 1871 年（明治 4 年）に開設されて 150 周年にあたります。2024 年には新一万円札が発行されますが、表には渋沢栄一が裏には耐恒寮で学んだ辰野金吾が設計した東京駅（1914 年/ 大正 3 年）が図案として用いられます。2025 年は旧唐津銀行が設立されて 140 周年になります。これも耐恒寮を卒業した大島小太郎が開設したものです。唐津商工会議所は 1934 年（昭和 9 年/ 初代会頭・古川仁一氏）に設立され 2024 年には 90 周年を迎えます。

いずれも明治、大正、昭和の荒波の中で時代の荒波を乗り越えてきた人たちです。私たちはこれらの先人の進取の気性を身近に学ぶことが出来ます。（参考「時代を拓いた唐津の先人』（宮島清一著、海鳥社）など」

唐津銀行開設当時/大石町

（4）重要なインフラ等の完成を活力と魅力あるまちづくりのきっかけとしましょう。

2020 年秋には東城内町田線が開通しました。唐津の道路網の弱点であった南北の道路が完成しました。引きつづき、21 年 3 月には松浦川遊歩道が、23 年 3 月には唐房トンネルが竣工する予定です。

唐津市役所新庁舎が 23 年秋に完成し、市民の憩いと交流の場が生まれることになります。「舞鶴荘」はいったん売却の方針でしたが私たちの働きかけもあり、九州電力が保有し続けることになり、現在再活用の検討がなされています

佐賀新聞

(5)日本と世界の政治経済の動きを注視しよう。

7 年 8 か月続いた安倍政権が終わり、菅政権が 2020 年 9 月に発足しました。「アベノミクス」がどう継続あるいは修正されるのかが注目されます。10 月にメンバーが決まった「成長戦略会議」で今後の経済政策が議論されていますが、中小企業と大企業との労働生産性の差を厳しく指摘している方もメンバーに入っています。もちろん、日本商工会議所の三村会頭もメンバーです。わが国の中小企業の方向性がどう議論されるのか注視していく必要があります。

2021 年 1 月 20 日、バイデン氏がアメリカ大統領が就任しました。アメリカ一国主義が過去 4 年間進められました。保護主義の弊害が出始めています。コロナという感染症が世界中を覆っているからこそ国際協調体制がうまく機能する必要があります。

私たちは今、100 年に一度と言われる大変な時代のただなかにいます。

時代の変化の兆しをとらえ、先人から受け継いだ進取の気性を発揮し、着実に整備されている社会インフラを生かして、コロナ禍という荒波の先にある光を見つけることが重要だと考えます。

唐津商工会議所は「第 2 次唐津商工会議所中期計画 2021－2024」を策定し、地域の唯一の総合的経済団体としてこれらの課題に応えていきます。

〈目指すべき地域経済の姿と目標〉

① 第 1 次計画に示した地域経済の姿を活かすとともにコロナ禍の中で「三密」対策を避けたアウトドアアクティビティの成長の兆しがみられることに鑑み、唐津の自然のポテンシャルを明確にするため「自然」を明記する。また、コロナ禍という荒波の中における計画であることを示す。

② 経済団体としての中期計画目標として「姿」だけでなく、唐津の地域経済の弱点を克服する「目標」を示す。

目指すべき地域経済の姿としては

「歴史・文化と自然に満たされた街・唐津に荒波を乗り越える人と企業がきらりと輝く」

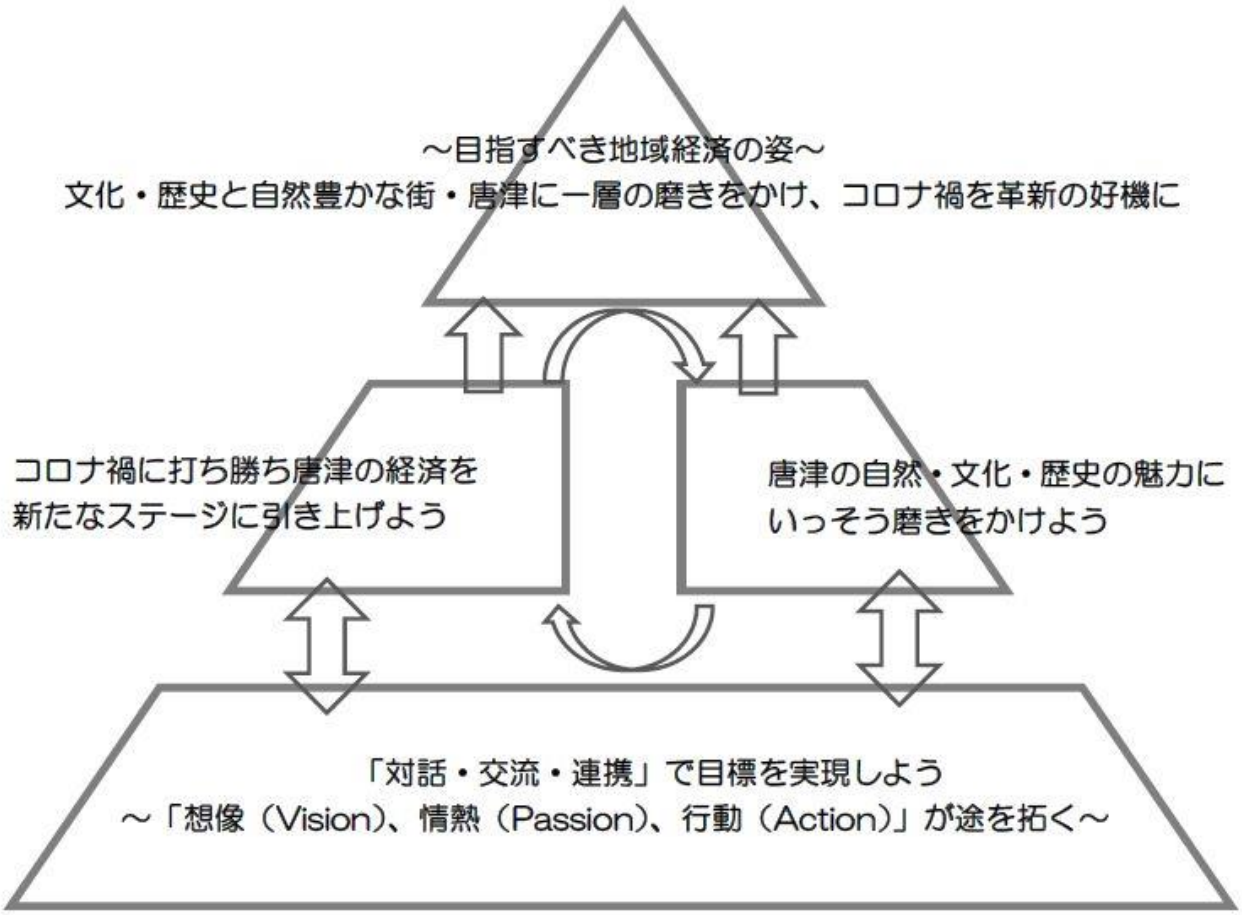
とします。

目標としては唐津の一人当たり所得が低いことを踏まえ、その引き上げを常に念頭に置いた政策を展開することを官民の共通認識とするために

「一人当たり市民所得をできるだけ早期に佐賀県平均に引き上げるとともに、引き続き、全国

平均に近づける」
とします。
　なお。一人当たり所得は、その「所得」が、雇用所得、企業所得、財産所得から構成され、地域の総合的経済力を地域間の比較ができるようにしたものです。

〈活動の基本姿勢～「対話、交流、連携」～〉
「対話」により地位経済の実態を正確に早く把握します。
「交流」により「化学反応」を起こしwithコロナ、afterコロナの新しいビジネスを育みます。
「連携」によりレバレッジ（梃子）をかけて大きく育てます。
前計画を引き継いでいますが、コロナ禍であるからこそ意義を持つものです。
活動の基本姿勢は、**「対話、交流,連携」**とします。

〈実現へのエネルギー～「夢(Vision)**、情熱**(Passion)**、行動力**(Action)**」～〉**
　明治初期、先に上げた辰野金吾や大島小太郎たちは江戸から明治という激動の中で大仕事を成し遂げています。彼らを動かしたのなんだろうかと考えるとき私たちは、大きな青写真を描き、情熱をもって突き進む行動力に思い至るのではないでしょうか。
　私たちも、日々のルーティーンに追われるだけでなく、常に私たちの夢を思い浮かべて頑張ることが重要だと考えます。
　実現への原動力として、**「夢/ビジョン、情熱/パッション、行動力/アクション」**を提案します。

第２次唐津商工会議所中期計画2021－2024概念図